

「神対応」

我々は死ねば仏になります。神になるのはほとんど不可能です。しかし最近、「神対応」という言葉をよく耳にします。

これって、もともとは企業のクレーム対応や顧客対応などが、びっくりするほど行き届いているときに用いられる表現だったか。ならば「仏対応」という表現もあつてよさそうなのですが、あまり聞いたことがないですね。慈悲深さ、人の好きでは「仏」が上のようないです。神がかついていてすげえということ、「神対応」なんてしよっか。

そんな「神」に関する諺にはどういふものがあるのでしょうか。

まずは、「捨てる神あれば拾う神あり」。日本には八百万の神がいるのだから、困ったことがあつてもがっかりすることはないよという、悩んでいる人を励ます諺ですが、残念ながら必ず神が拾ってくれるという保証はどこにもありません。我々も身勝手なもので「困った時の神頼み」「苦しい時の神頼み」と、そんな時だけ調子よく神様にお願いをしがちですね。ところで神様ってどこにいらっしゃるのでしょうか？

「神は正直の頭に宿る」。どうやら正直な人の所にいて、そんな正直者を守ってくれようようです。

では神様とはどう付き合えばいいのでしょうか？

「触らぬ神に祟りなし」だそう。完全に逃げの姿勢ですね。同じような意味で「仏ほつとけ神構うな」という言葉もあります。深入りはダメ、ほどほどにということなのでしょう。

どうやら神には安易に近づかないほうがいいようです。「神のイタズラ」や「神様の罰が当たる」こともありますからね。

O W L I N F O R M A T I O N

地球の見方が変わる。時空間を体感する新展示室

常設展示室新設 特別企画
惑星地球の時空間

8月4日(金)～10月1日(日) 10:00～17:00(金曜日は21:00まで)
北海道大学総合博物館 3階S301(札幌市北区北10条西8丁目 TEL011-706-2658)
休館日/月曜日(祝日の場合は翌日休館)・9月3日(日)
入場無料

北海道大学総合博物館に収蔵された約40万点もの鉱物や岩石、鉱石標本の一部を公開する「鉱物・岩石標本の世界」展示室が8月4日にオープンします。博物館の耐震改修工事のために解体された旧展示室に替わる展示では、「地球を感じる展示」として「6.4m(100万分の1スケール)の地球断面図」と「4.6mの地球史カレンダー」を設置。クラウドファンディングの支援で制作された迫力あるパネルと、地球環境を反映した鉱物・岩石から、日常スケールでは想像しにくい地球の悠遠な時空間を体感できます。



展示室のイメージ

また、8月6日からは同博物館1階企画展示室で札幌国際芸術祭のプロジェクト「吉増剛造「火ノ刺繍-石狩シーツ」の先へ」を同時開催。「石狩シーツ」のビジョンを振り返るとともに、その先に待つものへと分け入る新作を発表します。

北海道美術を概観する名品50点

開館40周年記念 近美コレクション第11期名品選
北海道美術50 名作の秘密を探る

8月26日(土)～11月7日(火)
9:30～17:00(10月13日までの金曜日は19:30閉館。入場は閉館30分前まで)
北海道立近代美術館(札幌市中央区北1条西17丁目 TEL011-644-6882)
休館日/月曜日(祝日の場合は直後の平日、11月6日は開館)
観覧料/一般510(420)円、高大生250(170)円、65歳以上・中学生以下無料
※()内は10名以上の団体料金。ほか各種割引制度あり

開館40年を迎えた北海道立近代美術館が、同館と三岸好太郎美術館のコレクションから厳選した、北海道ゆかりの作品50点を紹介する書籍を8月下旬に出版します。各学芸員が「楽しんでほしい!」と選んだ鑑賞ポイントや作品の背景を解説した、美術の楽しみ方が広がる内容となる予定です。

書籍の出版に合わせ、同館では誌上で取り上げた江戸後期から現代までの日本画、油彩画、版画、彫刻などを集めた展覧会を開催。「名作の秘密」に触れながら、北海道の近現代美術の魅力を再発見することができます。また、展示室2階では「北海道の陶芸」「ふれるかたち」「この1点を見てほしい。」を同時開催。北海道の美術を様々な視点から楽しむ仕掛けが用意されています。



酒場の匂いがする、戯れ言と云々。

サカバナ

シーズ編集部・編
定価:本体633円+税(電子書籍版も同価格)

酒にまつわるエッセイや小説、呑兵衛の言い訳、何の役にも立たない泥酔記録などを拾い集めた「酔い本」です。

札幌を主戦場とし、日々酒場に集う総勢二十数名の北の飲兵衛たちが、飲酒について、酒場について、あるいは失われた記憶についての思いを各々自由な形式で寄稿。深夜の酒場で相席客の一人語りを聞いているような、不思議な臨場感が漂う脱力作。遊び心満載の使用済み(風)コースターが付いています。



シーズ(発売元:中西出版)
四六判、192頁
2017年6月刊行
※電子書籍の価格は希望小売価格

心で感じる35の人生訓

縁を紡ぎ、人を育む

生き方・仕事ぶりを高める人生35訓
石田邦雄・著
定価:本体1,600円+税(電子書籍版は1,500円+税)

研修講師やキャリアコンサルタントとして人材育成や組織改革に長年携わってきた著者が、講義で伝えてきた言葉や話題にのぼるフレーズを「生き方」「仕事ぶり」など5章35訓にまとめて上げました。

事例や体験談を交えたエッセイのように読みやすい語り口からは、「教える」ではなく「考える」、「学ぶ」ではなく「気づく」を重視する著者ならではの心配りが感じられます。朝礼や企業内研修のサブテキストにも適した一冊。



中西出版
四六判、298頁
2017年6月刊行
※電子書籍の価格は希望小売価格

懐かしさを誘う水彩画集

Sueko Yoshizumi Collection

吉積すえ子・著
定価:2,000円(税込)

札幌で水彩画を描く吉積すえ子さんが、これまでの作品を画集にまとめました。

画集には風景や静物画のほか、子どもの生き生きとした表情をとらえた童画や、吉積さんが大家族と過ごした幼い日の暮らしの思い出を描いた連作「北13条物語」などを収録。水彩絵の具の特徴を生かした明るく澄んだ色彩は、吉積さんがさやかな幸せへと向ける温かな思いを感じさせ、どこか郷愁を誘う作品集となっています。



吉積すえ子(自費出版)
B5変形判、95頁 2017年7月刊行
(お問い合わせは中西出版まで)



前号発行以後、出版記念イベントが続いた。4月に『新版 武四郎碑に刻まれたアイヌ民族』出版記念講演会、7月に「劇団「河」展・札幌展」と「吉積すえ子絵画展」を実施した。「武四郎碑」講演会は、来年が松浦武四郎による北海道命名150周年に当たるということもあり、立ち見が出る程の盛況であった。「河」展初日の「あの日たち、へ」出版記念トークイベントでは、当時活躍した劇団の俳優たちの熱い語り合いを聴かせていただき、「吉積すえ子絵画展」では、優しさや懐かしさを感じさせる作品の展示で共に好評だった。互いに苦戦を強いられているが、書店の協力も得つつ、新しい作品や作家を紹介する機会として、今後も企画を考えていきたい。(Y)

■発行・編集/中西出版(株)
〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
電話011-785-0737 FAX011-781-7516
E-mail: owl@nakanishi-shuppan.co.jp
■発行責任者/林下英二
■発行日/2017年7月31日



http://nakanishi-shuppan.co.jp